

## 新たな成長の源泉

## 社説

少子高齢化時代に突入したわが国において、高齢者の存在感が増している。社会保障制度の抜本改革が迫られ、年金支給年齢の見直しが議論されている。高齢者の負担をどう配分するかという後ろ向き対処法ばかりが先行するが、逆転の発想も必要だ。社会全体を高齢者視点から創り直すことで、新たな需要を喚起する。国は「シルバーニューデール」による新産業・雇用創出を目指すべきだ。

センターが命名した新たな成長ビジョン。高齢者標準のまちづくりや製品・サービス提供で、潜在的な需要を掘り起こし、ひいては日本全体の活性化につな

高齢化時代を迎えたわが国にとってシルバーニューデールは、チャレンジに値する重要課題といえる。都市・住宅から健康、医療、福祉を含む新社会基盤の

づくり」にもピタリ合致する。「高齢者大国・日本」を創造するためには、高齢者のとらえ方を大きく変える必要がある。東大政策ビジョン研究センター

いることを示唆する。活力ある高齢者を労働の場で再活用することは、社会全体を活気づけ、新しい内需創造に直結する。同研究センターの坂田一郎教授

は、社会の高齢化を「モア・ラ イフ（長寿化）」ととらえるべきだと提唱している。大規模な社会改革には、既存制度の打破が迫られる。従来の若者・中年層中心の社会づくりを高齢者視点に転換する際、イノベーションに現行制度が追いつかないことも予想される。実際に一部のサービスロボットは

## 高齢者標準で新産業の創出を

は、東京大学政策ビジョン研究

先進国の中でもっとも早く高

政府が目指す「課題解決型国家

を越えているという。要は元氣

日本に新たな可能性を与えてく

る。